景気動向調査結果報告書
【やお景況レポート】

2017年　第Ⅱ・四半期（4～6月）　VOL. 85

八尾商工会議所
八　　尾　　市

目　　次

【調査実施の概要】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

【調査結果の総括】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

１．製造業の景気動向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

２．非製造業の景気動向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９

３．経営上の関心事および課題について・・・・・・・・・・・・・・・・１２

４．経営上の問題点・業界の動向など　・・・・・・・・・・・・・・・・１４

【調査実施の概要】

本調査は、地域経済の総合的な動向を把握し、産業振興のための基礎資料の作成及び経営者への情報提供を目的として実施している。1996 年７月に第１回目の景気動向調査を実施し、今回（2017 年７月実施）の調査で 85 回目となる。

調査対象事業所は、八尾市内に立地する従業員５人以上の事業所を母集団として、その中から、製造業 650 社、非製造業（建設業、卸売業、小売業、サービス業）350 社の合計 1,000 社を無作為に抽出した。

調査方法は、調査票を郵送し、回収を FAX および電話で行った。

今回の回収率は、下表に示すとおり、製造業が 33.1%、非製造業が 26.0%、全体では 30.6%である（表１～２参照）。

（注）2013 年４～６月期調査より調査方法の変更を行った。2014 年１～３月期調査より調査対象事業所数を削減した（従来 1,300 社→1,000 社）。

表1. 業種別回答状況

業種名		発送数	回答数	回答率
	金属製品	170	54	31.8%
	機械器具	187	66	35.3%
	その他の製造業	293	95	32.4%
製造業計		650	215	33.1%
	建設業	110	31	28.2%
	卸売業	60	25	41.7%
	小売業	50	10	20.0%
	サービス業	130	25	19.2%
非製造業計		350	91	26.0%
合計		1,000	306	30.6%

表2. 規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率	発送数	回答数	回答率
5～19人	360	106	29.4%	254	62	24.4%	614	168	27.4%
20～49人	190	73	38.4%	57	18	31.6%	247	91	36.8%
50～99人	56	22	39.3%	21	7	33.3%	77	29	37.7%
100～299人	32	10	31.3%	12	3	25.0%	44	13	29.5%
300人以上	12	4	33.3%	6	1	16.7%	18	5	27.8%
合計	650	215	33.1%	350	91	26.0%	1,000	306	30.6%

【調査結果の総括】

～八尾の景気は回復基調が明確化～

４～６月期の八尾市の業況判断ＤＩ[1]は全産業で 18 と、前回調査から４ポイントの改善となり（３月=14→６月=18)、ＤＩ水準は本調査において業況判断の調査を開始した 2012 年４～６月期以来最も高い水準となった。業種別にみると、製造業は前回調査比１ポイントの悪化と（３月=15→６月=14)、１～３月期に大幅な改善がみられた後でもあり回復ペースが一服した形となったものの、非製造業は同 10 ポイント改善した（３月=13→６月=23)。製造業の回復が非製造業に波及していることがうかがえる内容となっている。

ＤＩの推移からここ１年ほどの八尾の景気動向を振り返ると、2016 年央以降、景況感は悪くはないものの浮揚感の乏しい展開が続いたが、2017 年に入ってからは、海外経済回復のもと輸出が増加傾向であることなど製造業を取り巻く事業環境の好転に加え、非製造業の回復も進んでおり、景気の持ち直しが明確になった。

図1．業種別天気図（景気水準）

	2016年7～9月期		2016年10～12月期		2017年1～3月期		今回 2017年4～6月期		天気図 前回比較
全産業		〈3〉		〈3〉		〈14〉		〈18〉	⇨
製造業		〈3〉		〈▲ 1〉		〈15〉		〈14〉	⇨
金属製品		〈▲ 10〉		〈4〉		〈21〉		〈17〉	⇨
機械器具		〈4〉		〈▲ 7〉		〈20〉		〈25〉	⇨
その他の製造業		〈11〉		〈1〉		〈8〉		〈6〉	⇨
非製造業		〈2〉		〈8〉		〈13〉		〈23〉	⇨
建設業		〈15〉		〈31〉		〈27〉		〈22〉	⇨
卸売業		〈▲ 11〉		〈▲ 15〉		〈13〉		〈15〉	⇨
小売業		〈±0〉		〈9〉		〈▲ 8〉		〈44〉	↗
サービス業		〈±0〉		〈±0〉		〈7〉		〈23〉	↗

（注）＜＞内は業況判断DI。景況天気図で示した景況判断は、業況判断DI値によって判定。本設問は2012年4～6月期調査より開始しており、景況判断は暫定的に、DI値がプラス10以上であれば晴れ 、0～9は薄日 、▲10～▲1は曇り 、▲20～▲11は小雨 、▲21以下は雨 とした。
図表における前回調査との比較の矢印マークは、景況天気図に基づくものであり、↗ が好転、⇨が横ばい、↘ が悪化を示す。

[1] ＤＩは、各景況項目について、「良い、上昇、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、下落、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。日銀短観や本調査における「業況判断ＤＩ」は「良い」から「悪い」を引いた「水準」調査であるのに対して、本調査における「業況判断ＤＩ」以外の項目（「生産額」、「出荷額」など）は前期・前年同期と比べての「増加」などから「減少」などを引いた「方向性」調査である。なお、本稿ではマイナスを「▲」と表している。

日銀短観[2]（2017 年６月調査）における全国および近畿の業況判断ＤＩ（全産業・全規模）は、2016 年央以降ともに改善の動きが続いている。2017 年６月調査では前回調査より全国が２ポイント、近畿は５ポイント改善した。６月調査においては、近畿は全国と比べて改善の動きが鈍かった非製造業で業況回復の動きがみられた。八尾市においても業況判断ＤＩ（全産業・全規模）は前回調査比４ポイントの改善と、全国および近畿同様、業況は回復している。八尾のＤＩは為替相場の急変といった想定外の出来事に対して敏感に反応しやすい傾向があり、景気回復・後退局面においても好転・悪化の振幅が大きく表出している可能性はあるが、八尾の景気は着実に回復していると判断される（図２～４）。

図2. 全産業・全規模の業況判断DI推移

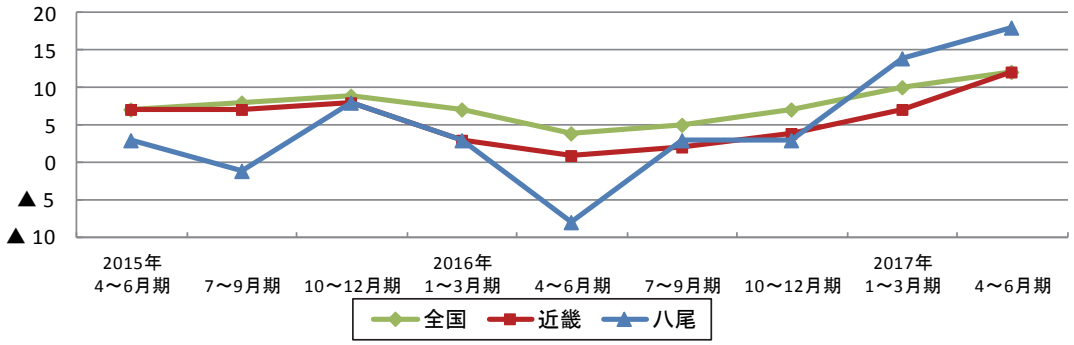


図3. 製造業・全規模の業況判断DI推移

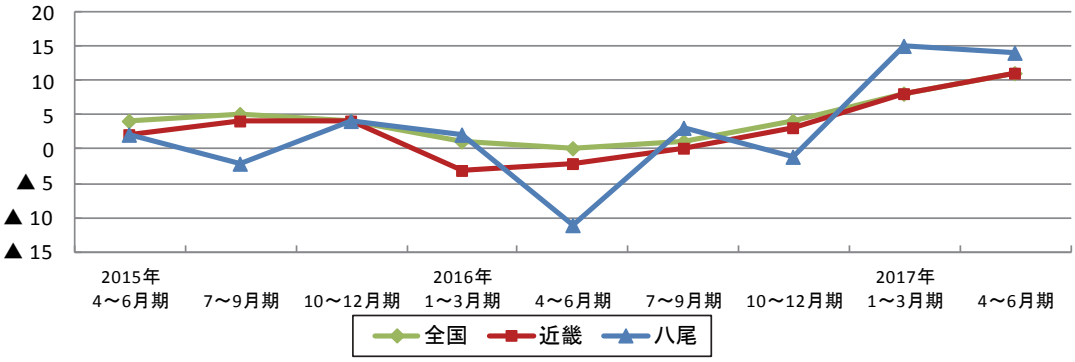
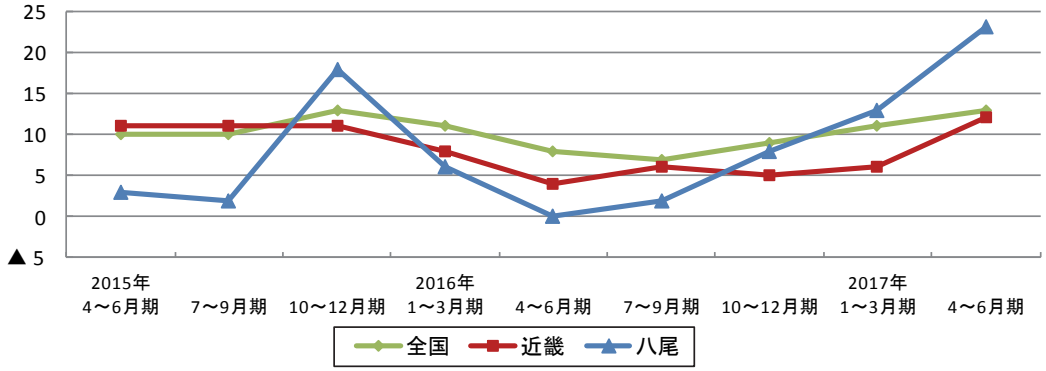


図4. 非製造業・全規模の業況判断DI推移



（資料）日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査−近畿地区−」

[2] 日銀短観は日本銀行「全国企業短期経済観測調査」の略。

景気の方向感を八尾市の各種前年同期比のＤＩ[3]で確認すると（図５～６）、製造業の「生産額」および「製品販売価格」がプラスに転じたのに加え、非製造業では「売上額」が２四半期続いてプラスで推移し「販売先数・客数」がプラスに転化するなど、ともに業績が好転している。もっとも「設備投資額」は、非製造業ではマイナス幅が縮小したものの、製造業ではＤＩのプラス幅が縮小しており、総じてみれば投資姿勢には慎重さがみられる状況と判断される。

図5. 製造業の各種「前年同期比」DI推移

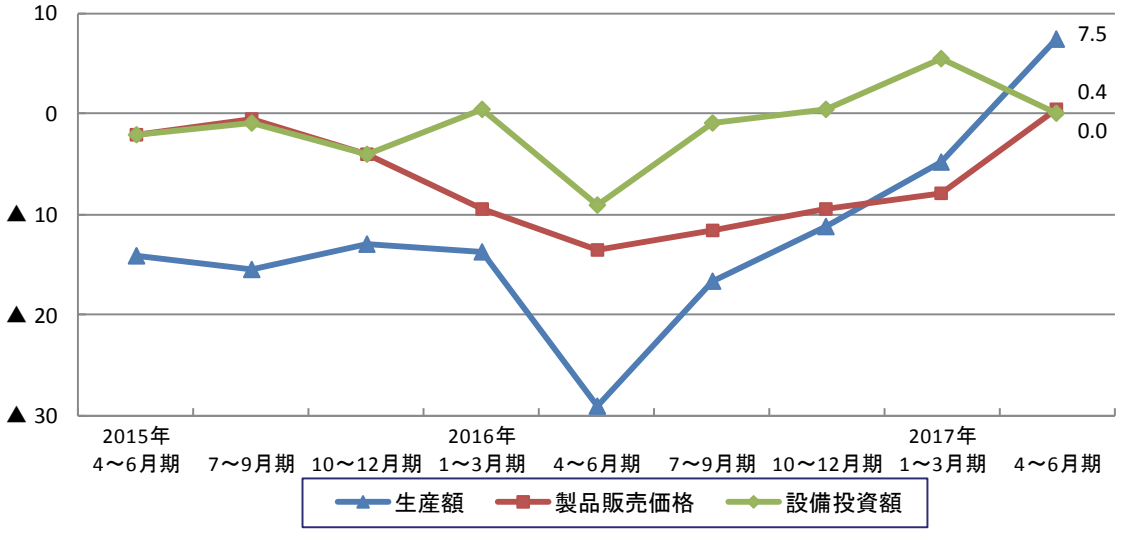
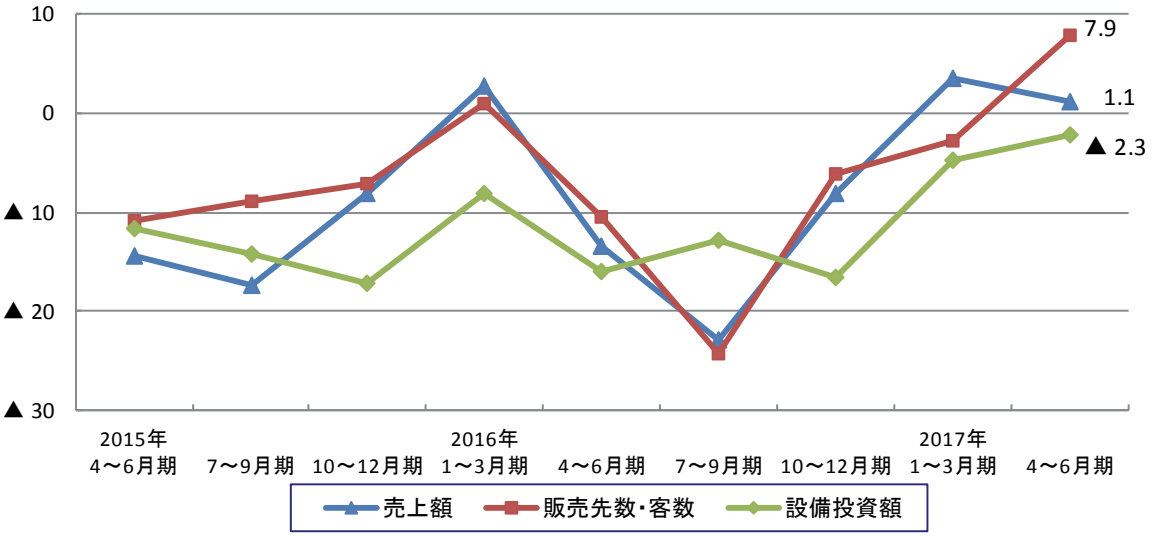


図6. 非製造業の各種「前年同期比」DI推移



3 「前年同期比」ＤＩは、各景況項目について、前年同期と比較して「良い、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。

1. 製造業の景気動向

景況天気図は（前回）⇒（今回）晴れ

【生産額】

製造業の 2017 年４～６月期における生産額ＤＩ（前期比、「増加」－「減少」）は 0.5 と、前回調査からプラス幅が縮小し、前期比では増産の動きは弱い（前々回 3.5→前回 2.1→今回 0.5）。業種別には、機械器具がプラスで推移したものの、金属製品がマイナスに転じ、その他の製造業ではマイナスが続いた。

表3. 生産額（前期比）

業種	当期の生産額は前期に比べて					
	回答数	構成比（%）			ＤＩ	前回ＤＩ
		増加	横這	減少		
金属製品	54	24.1	46.3	29.6	▲ 5.5	19.7
機械器具	66	22.7	65.2	12.1	10.6	5.4
その他の製造業	92	27.2	42.4	30.4	▲ 3.2	▲ 10.8
製造業計	212	25.0	50.5	24.5	0.5	2.1

前年同期と比べた生産額ＤＩは 7.5 とプラス（増加超）に転じ（前々回▲11.3→前回▲4.8→今回 7.5、▲はマイナスを表す、以下同様）、前年水準と比べれば回復の動きがみられる。業種別の内訳をみると、金属製品と機械器具はプラスに転じ、その他の製造業も下げ止まりの動きとなった。

表4. 生産額（前年同期比）

業種	当期の生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比（%）			ＤＩ	前回ＤＩ
		増加	横這	減少		
金属製品	54	44.4	27.8	27.8	16.6	▲ 3.9
機械器具	66	28.8	53.0	18.2	10.6	▲ 5.3
その他の製造業	94	28.7	42.6	28.7	±0	▲ 4.9
製造業計	214	32.7	42.1	25.2	7.5	▲ 4.8

【出荷額】

４～６月期の出荷額ＤＩ（前期比、「増加」－「減少」）は 1.4 と、プラス（増加超）に転じ出荷は持ち直しの動きがみられた（前々回 3.5→前回▲2.7→今回 1.4）。業種別では、金属製品が前回のプラスから±０（前期から変化なし）と伸び悩んだが、機械器具はプラスに転じ、その他の製造業は前回のマイナスから±０となり下げ止まりの動きがみられた。

表5. 出荷額

業種	当期の出荷額は前期に比べて					
	回答数	構成比（%）			ＤＩ	前回ＤＩ
		増加	横這	減少		
金属製品	52	28.8	42.4	28.8	±0	17.7
機械器具	65	20.0	64.6	15.4	4.6	▲ 3.6
その他の製造業	95	29.5	41.0	29.5	±0	▲ 14.4
製造業計	212	26.4	48.6	25.0	1.4	▲ 2.7

【 製品在庫 】

４～６月期の製品在庫ＤＩ（前期比、「不足」－「過剰」）は▲8.4 と、マイナス（過剰超）が続き（前々回▲6.7→前回▲9.9→今回▲8.4）、在庫過剰感は残存している。業種別の内訳をみると、すべての業種がマイナスであった。

表6. 製品在庫

業種	当期の製品在庫は前期に比べて					
	回答数	構成比（%）			ＤＩ	前回ＤＩ
		不足	適正	過剰		
金属製品	48	8.3	79.2	12.5	▲ 4.2	▲ 2.2
機械器具	62	6.5	80.6	12.9	▲ 6.4	▲ 12.7
その他の製造業	93	5.4	77.4	17.2	▲ 11.8	▲ 12.5
製造業計	203	6.4	78.8	14.8	▲ 8.4	▲ 9.9

【 原材料仕入価格 】

４～６月期の原材料仕入価格ＤＩ（前期比、「値上」－「値下」）は 36.4 と、プラス（値上超）が続き、価格上昇傾向である（前々回 16.5→前回 37.4→今回 36.4）。業種別にみても、すべての業種がプラスで推移した。

表7. 原材料仕入価格

業種	当期の原材料仕入価格は前期に比べて					
	回答数	構成比（%）			ＤＩ	前回ＤＩ
		値上	横這	値下		
金属製品	51	62.7	37.3	0.0	62.7	56.0
機械器具	64	35.9	59.4	4.7	31.2	36.4
その他の製造業	94	27.7	70.2	2.1	25.6	26.9
製造業計	209	38.8	58.8	2.4	36.4	37.4

【 製品販売価格 】

４～６月期の製品販売価格ＤＩ（前期比、「値上」－「値下」）は 3.4 と、製造業計では 2008 年７～９月期以来のプラス（値上超）となった（前々回▲5.9→前回▲3.7→今回 3.4）。業種別では、機械器具でマイナス幅が縮小し、金属製品とその他の製造業はプラスに転じた。

表8. 製品販売価格（前期比）

業種	当期の製品販売価格は前期に比べて					
	回答数	構成比（%）			ＤＩ	前回ＤＩ
		値上	横這	値下		
金属製品	52	13.5	78.8	7.7	5.8	▲ 5.9
機械器具	63	7.9	82.6	9.5	▲ 1.6	▲ 3.6
その他の製造業	94	7.4	90.5	2.1	5.3	▲ 2.4
製造業計	209	9.1	85.2	5.7	3.4	▲ 3.7

前年同期と比べた製品販売価格ＤＩは0.4と、2008年７～９月期以来のプラス（値上超）となった（前々回▲9.5→前回▲7.9→今回0.4）。

表9. 製品販売価格（前年同期比）

業　　種	当期の製品販売価格は前年同期に比べて					
	回答数	構成比（%）			ＤＩ	前回ＤＩ
		値上	横這	値下		
金属製品	52	11.5	73.1	15.4	▲ 3.9	▲ 7.9
機械器具	65	7.7	78.5	13.8	▲ 6.1	▲ 8.9
その他の製造業	95	12.6	82.1	5.3	7.3	▲ 7.4
製造業計	212	10.8	78.8	10.4	0.4	▲ 7.9

【 採算状況 】

４～６月期の採算状況ＤＩ（前期比、「好転」－「悪化」）は▲10.4と、仕入価格の上昇の一方で販売価格への転嫁がみられることなどもあり、マイナス（悪化超）幅は縮小した（前々回▲10.4→前回▲14.8→今回▲10.4）。業種別の内訳をみると、全ての業種がマイナスであったが、金属製品とその他の製造業はマイナス幅が縮小した。

表10. 採算状況

業　　種	当期の採算状況は前期に比べて					
	回答数	構成比（%）			ＤＩ	前回ＤＩ
		好転	横這	悪化		
金属製品	52	17.3	57.7	25.0	▲ 7.7	▲ 9.8
機械器具	65	10.8	69.2	20.0	▲ 9.2	▲ 7.2
その他の製造業	94	12.8	61.7	25.5	▲ 12.7	▲ 22.9
製造業計	211	13.3	63.0	23.7	▲ 10.4	▲ 14.8

【 資金繰り 】

４～６月期の資金繰りＤＩ（前期比、「好転」－「悪化」）は▲1.4とマイナス（悪化超）が縮小し、厳しさは和らいだ（前々回▲3.5→前回▲6.4→今回▲1.4）。業種別の内訳をみると、金属製品は下げ止まりの動きとなり、機械器具やその他の製造業はマイナス幅が縮小した。

表11. 資金繰り

業　　種	当期の資金繰りは前期に比べて					
	回答数	構成比（%）			ＤＩ	前回ＤＩ
		好転	横這	悪化		
金属製品	52	13.5	73.0	13.5	±0	▲ 8.0
機械器具	65	4.6	89.2	6.2	▲ 1.6	▲ 3.6
その他の製造業	94	13.8	70.2	16.0	▲ 2.2	▲ 7.4
製造業計	211	10.9	76.8	12.3	▲ 1.4	▲ 6.4

【 受注状況 】

４～６月期の受注状況ＤＩ（前期比、「好転」－「悪化」）は▲3.3 と、マイナス（悪化超）が続き（前々回▲2.9→前回▲4.7→今回▲3.3）、冴えない状態が続いている。機械器具はプラスで推移し、その他の製造業はマイナス幅が縮小したものの、金属製品はマイナスに転じた。

表12. 受注状況

業　　種	当期の受注状況は前期に比べて					
	回答数	構成比（%）			ＤＩ	前回ＤＩ
		好転	横這	悪化		
金　属　製　品	51	19.6	58.8	21.6	▲ 2.0	9.8
機　械　器　具	65	18.5	67.7	13.8	4.7	3.6
その他の製造業	94	22.3	45.8	31.9	▲ 9.6	▲ 19.2
製造業計	210	20.5	55.7	23.8	▲ 3.3	▲ 4.7

【 設備投資額 】

４～６月期の設備投資額ＤＩ（前年同期比、「増加」－「減少」）は±０と、プラス（増加超）幅が縮小し（前々回 0.5→前回 5.4→今回±０）、投資姿勢には慎重さがみられる。業種別には、金属製品はプラスが続き、機械器具で下げ止まりの動きがみられるものの、その他の製造業は再びマイナスに転じた。

表13. 設備投資額

業　　種	当期の設備投資額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比（%）			ＤＩ	前回ＤＩ
		増加	横這	減少		
金　属　製　品	51	21.6	58.8	19.6	2.0	2.0
機　械　器　具	64	14.1	71.8	14.1	±0	±0
その他の製造業	94	16.0	67.0	17.0	▲ 1.0	11.2
製造業計	209	16.7	66.6	16.7	±0	5.4

【 向こう3カ月の景況 】

４～６月期における向こう３カ月の景況判断ＤＩ（「好転」－「悪化」）は▲7.3 と、マイナス（悪化超）で推移した（前々回▲4.5→前回▲3.2→今回▲7.3）。業種別の内訳をみると、機械器具は下げ止まりの動きがみられるものの、金属製品はマイナス幅縮小の動きにとどまり、その他の製造業はマイナスに転じた。

表14. 向こう3カ月の景況

業　　種	向こう3カ月の景況					
	回答数	構成比（%）			ＤＩ	前回ＤＩ
		好転	横這	悪化		
金　属　製　品	51	15.7	60.8	23.5	▲ 7.8	▲ 9.9
機　械　器　具	63	15.9	68.2	15.9	±0	▲ 3.7
その他の製造業	94	17.0	54.3	28.7	▲ 11.7	1.2
製造業計	208	16.3	60.1	23.6	▲ 7.3	▲ 3.2

2. 非製造業の景気動向

景況天気図は（前回）⇒（今回）晴れ

建設業

景況天気図は（前回）⇒（今回）晴れ

４～６月期の状況を各種ＤＩ（前期比）でみると、売上額はプラス（増加超）で推移している。もっとも、資材仕入価格や労務費がプラス（値上超）と上昇傾向である一方で、受注単価はマイナス（値下超）となり、採算状況はマイナス（悪化超）となった。コスト上昇で利益が圧迫されている状況はみられるものの、工事引合件数、受注状況はプラス（好転超）に転じており、仕事量の確保に不安はないものとみられる。向こう３カ月の景況は前回のプラス（好転超）となり、改善見込みである。

前年同期比ＤＩをみると、売上額は±０と増勢に勢いがないが、受注状況はプラスが続き好転している。もっとも、設備投資額はマイナス（減少超）であり、投資姿勢は慎重である。

表15. 建設業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比（%） 増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化	DI	前回DI
前期比	売上額	31	38.7	41.9	19.4	19.3	8.8
	資材仕入価格	31	32.3	64.5	3.2	29.1	21.9
	労務費	31	29.0	71.0	0.0	29.0	3.1
	工事引合件数	31	38.7	51.6	9.7	29.0	▲ 3.1
	受注単価	29	0.0	86.2	13.8	▲ 13.8	±0
	採算状況	31	3.2	87.1	9.7	▲ 6.5	▲ 9.4
	資金繰り	31	6.5	83.8	9.7	▲ 3.2	12.5
	受注状況	31	38.7	48.4	12.9	25.8	▲ 6.3
	向こう３カ月の景況	31	32.3	54.8	12.9	19.4	±0
前同期年比	売上額	31	29.0	42.0	29.0	±0	17.7
	受注状況	31	35.5	45.1	19.4	16.1	3.1
	設備投資額	30	16.7	53.3	30.0	▲ 13.3	▲ 3.2

卸 売 業

景況天気図は（前回）⇒（今回）晴れ

４～６月期を前期と比べると、売上額は±０と伸び悩んだが、客単価と販売先数・客数がともプラス（増加超）となり、回復基調は続いているとみられる。商品仕入価格はプラス（値上超）ながら、同時に商品販売価格もプラスであることから、採算状況はプラス（好転超）に転じ改善の動きがみられた。もっとも、向こう３カ月の景況はマイナス（悪化超）となり、先行き悪化を見込んでいる。

前年同期とのＤＩの比較でみると売上額は前回のプラス（増加超）から±０となり増勢は弱いが、販売先数・客数がプラス（増加超）となった。設備投資額はマイナス（減少超）が続き、慎重な投資行動にとどまっている。

表16. 卸売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比（%） 増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化	DI	前回DI
前期比	売上額	24	37.5	25.0	37.5	±0	12.2
	販売先数・客数	24	20.8	62.5	16.7	4.1	▲ 9.1
	客単価	24	16.7	70.8	12.5	4.2	3.0
	商品仕入価格	24	25.0	70.8	4.2	20.8	24.2
	商品在庫	24	4.2	83.3	12.5	▲ 8.3	▲ 6.0
	商品販売価格	24	20.8	70.9	8.3	12.5	9.1
	採算状況	24	20.8	62.5	16.7	4.1	▲ 9.1
	資金繰り	24	8.3	75.0	16.7	▲ 8.4	▲ 12.2
	粗利益率	24	20.8	54.2	25.0	▲ 4.2	▲ 3.2
	向こう３カ月の景況	24	20.8	41.7	37.5	▲ 16.7	6.0
前期同年比	売上額	24	37.5	25.0	37.5	±0	9.1
	販売先数・客数	24	20.8	66.7	12.5	8.3	3.1
	設備投資額	24	12.5	70.8	16.7	▲ 4.2	▲ 16.1

小 売 業

景況天気図は（前回）⇒（今回）晴れ

４～６月期の各種ＤＩ（前期比）は、販売先数・客数がプラス（増加超）に転じ、この結果、売上額もプラスに転じた。商品仕入価格はプラス（値上超）である一方で、商品販売価格はマイナス（値下超）と、価格転嫁の動きは一進一退の状況である。もっとも、売り上げの回復のもと採算状況は±０が続き落ち着いた動きとなっている。向こう３カ月の景況はプラス（好転超）と、明るさがみられる。

前年同期との比較では、売上額、販売先数・客数はプラス（増加超）に転じた。設備投資額は前回のプラスから±０となり、盛り上がりを欠く動きにとどまった。

表17. 小売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%) 増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化	DI	前回DI
前期比	売上額	10	40.0	40.0	20.0	20.0	▲ 26.7
	販売先数・客数	10	20.0	70.0	10.0	10.0	▲ 46.6
	客単価	10	20.0	80.0	0.0	20.0	13.3
	商品仕入価格	10	50.0	50.0	0.0	50.0	46.6
	商品在庫	10	10.0	90.0	0.0	10.0	6.7
	商品販売価格	10	0.0	80.0	20.0	▲ 20.0	13.4
	採算状況	10	30.0	40.0	30.0	±0	±0
	資金繰り	10	30.0	60.0	10.0	20.0	▲ 13.3
	粗利益率	10	20.0	60.0	20.0	±0	13.3
	向こう3カ月の景況	10	40.0	40.0	20.0	20.0	6.7
前同期年比	売上額	10	50.0	20.0	30.0	20.0	▲ 6.6
	販売先数・客数	10	50.0	20.0	30.0	20.0	▲ 13.3
	設備投資額	10	20.0	60.0	20.0	±0	6.7

サービス業

景況天気図は（前回） ⇒（今回）晴れ

４～６月期を前期と比べると、客数がプラス（増加超）に転じたことで、売上額もプラス（増加超）となった。採算状況や資金繰りには下げ止まりの動きがみられる。向こう３カ月の景況も前回のマイナス（悪化超）から±０と下げ止まることが期待されている。

前年同期との対比では、売上額と客数はマイナス（減少超）幅縮小の動きにとどまり、収益環境の改善は遅れてるものの、設備投資額はプラス（増加超）に転じた。

表18. サービス業の景気動向

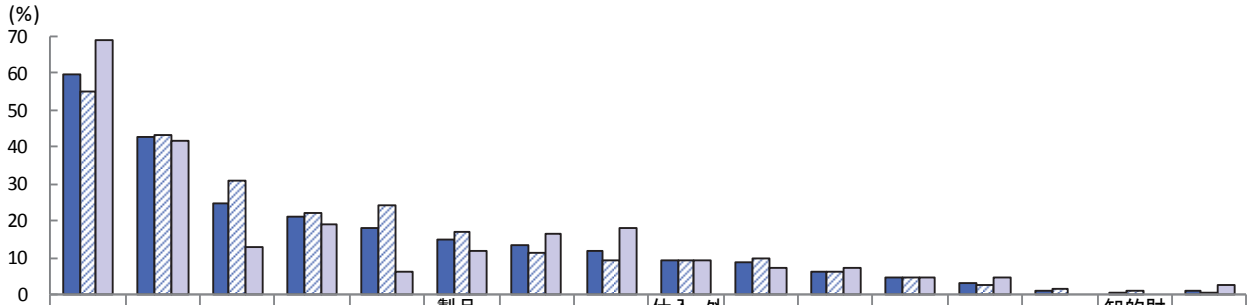
景気動向指標		回答数	構成比(%) 増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化	DI	前回DI
前期比	売上額	25	24.0	60.0	16.0	8.0	▲ 18.5
	客数	24	16.7	70.8	12.5	4.2	▲ 21.4
	客単価	24	8.3	83.4	8.3	±0	▲ 18.5
	採算状況	25	8.0	84.0	8.0	±0	▲ 10.7
	資金繰り	23	13.0	74.0	13.0	±0	▲ 10.8
	粗利益率	24	12.5	70.8	16.7	▲ 4.2	▲ 14.3
	向こう3カ月の景況	24	12.5	75.0	12.5	±0	▲ 3.6
前同期年比	売上額	25	24.0	48.0	28.0	▲ 4.0	▲ 14.8
	客数	24	12.5	66.7	20.8	▲ 8.3	▲ 11.1
	設備投資額	24	29.2	54.1	16.7	12.5	±0

3. 経営上の関心事および課題について

関心事・経営課題について尋ねたところ、全体(回答事業所数は 250)では、「人材確保」(59.6%)が最も多く、次いで「販路拡大」(42.8%) が挙げられた。「生産性向上」(24.8%)、「技術力向上」(21.2%)、「技能承継」(18.0%) がこれに続いたが、上位２項目との差が大きい (図７)。

業種別でみると、製造業、非製造業ともに上位項目としては「人材確保」と「販路拡大」が挙げられている。「人材確保」を挙げる事業所の割合は製造業が 54.8%であるのに対して非製造業では 69.0%と製造業を大きく上回っている。製造業では、「生産性向上」(30.7%) や「技能承継」(24.1%) を挙げる事業所も相当数あった。

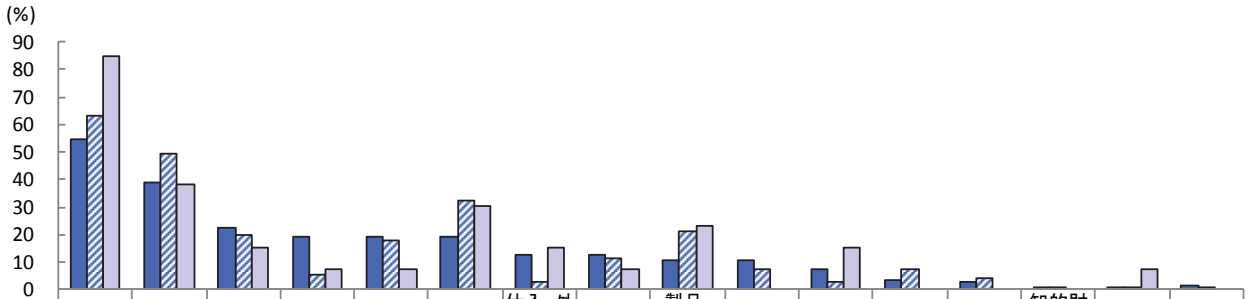
図7. 関心事および経営課題(業種別)



	人材確保	販路拡大	生産性向上	技術力向上	技能承継	製品・サービス開発	資金繰り	業界動向	仕入・外注先確保	事業承継	マーケティング	IT活用	海外展開	環境対策	知的財産権対応	その他
■合計<250>	59.6	42.8	24.8	21.2	18.0	15.2	13.2	12.0	9.2	8.8	6.4	4.8	3.2	1.2	0.8	1.2
▨製造業<166>	54.8	43.4	30.7	22.3	24.1	16.9	11.4	9.0	9.0	9.6	6.0	4.8	2.4	1.8	1.2	0.6
□非製造業<84>	69.0	41.7	13.1	19.0	6.0	11.9	16.7	17.9	9.5	7.1	7.1	4.8	4.8	0.0	0.0	2.4

(注)〈 〉内は回答事業所数。複数回答。

図8. 関心事および経営課題(従業員規模別)



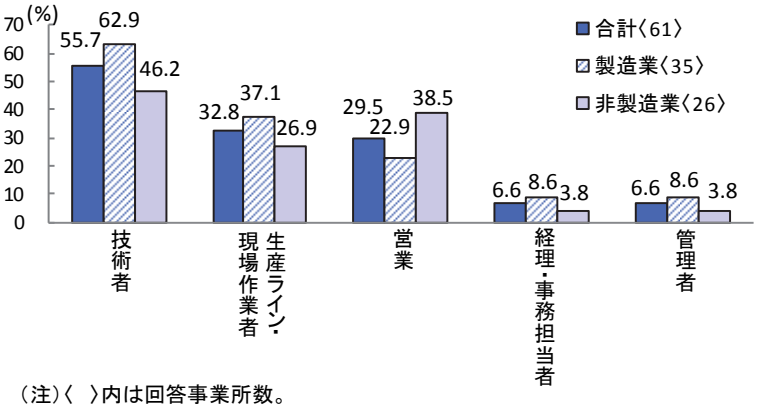
	人材確保	販路拡大	技術力向上	資金繰り	技能承継	生産性向上	仕入・外注先確保	業界動向	製品・サービス開発	事業承継	マーケティング	IT活用	海外展開	知的財産権対応	環境対策	その他
■5～19人〈142〉	54.9	38.7	22.5	19.0	19.0	19.0	12.7	12.7	10.6	10.6	7.7	3.5	2.8	0.7	0.7	1.4
▨20～99人〈95〉	63.2	49.5	20.0	5.3	17.9	32.6	3.2	11.6	21.1	7.4	3.2	7.4	4.2	1.1	1.1	1.1
□100人以上〈13〉	84.6	38.5	15.4	7.7	7.7	30.8	15.4	7.7	23.1	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0

(注)〈 〉内は回答事業所数。複数回答。

従業員規模別にみると、事業所規模の大小を問わず、「人材確保」を挙げる事業所が最も多く、次いで「販路拡大」が挙げられた。「人材確保」については従業員規模の大きい事業所ほど割合が大きい結果となった（図８）。

「人材確保」を挙げた事業所にどのような人材が必要かを尋ねたところ、全体では（回答事業所数は61、自由回答）、「技術者」（55.7%）、「生産ライン・現場作業者（物流スタッフなど）」（32.8%）、「営業」（29.5%）、「経理・事務担当者」（6.6%）、「管理者」（6.6%）であった（図９）。

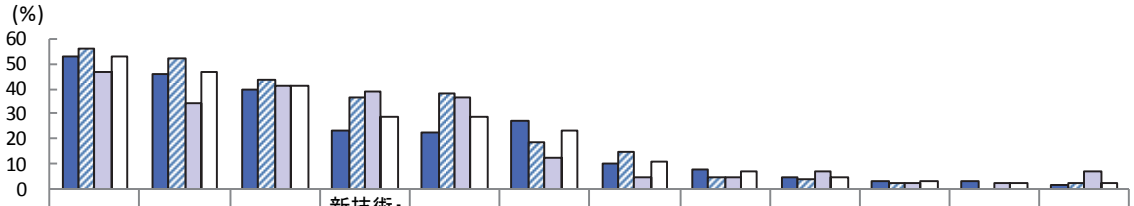
図９. 必要な人材について



（注）〈　〉内は回答事業所数。

なお、2013 年７～９月期の景気動向調査においても経営上の課題について調査している。当該調査でも「人材の確保・育成」は、事業所の規模に関わらず経営上の課題として最も多く挙げられていた。しかし、当時は従業員規模の大きい事業所での割合は回答事業所平均を下回り、次に挙げられた「売上の低迷」や「販路開拓」との割合の差もさほど大きくはなかった。このことからみて、ここ数年の間に、一般には採用活動で優位にあるとみられる大企業においても人材確保は経営課題としての重要性を増し、企業規模を問わず危機感を抱いていることがうかがえる。

（参考）現状における経営上の課題（2013 年７～９月期調査）



	人材の確保・育成	売上の低迷	販路開拓	新技術・新商品・新サービスの開発	生産・業務の効率化	運転・設備資金の確保	労働環境の整備	仕入の確保	環境問題への対応	IT・SNSの活用	法律実務知識の不足	その他
5～19人〈249〉	52.6	45.8	39.8	23.3	22.5	27.3	10.0	8.0	4.8	3.2	3.2	1.6
20～99人〈137〉	56.2	51.8	43.8	36.5	38.0	19.0	14.6	5.1	3.6	2.2	0.0	2.2
100人以上〈41〉	46.3	34.1	41.5	39.0	36.6	12.2	4.9	4.9	7.3	2.4	2.4	7.3
全体〈427〉	52.9	46.4	41.0	28.9	28.7	23.1	11.0	6.8	4.7	2.8	2.1	2.3

（注）〈　〉内は回答事業所数。複数回答。

4. 経営上の問題点・業界の動向など

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種	規模	コメント内容
製造業	A	未経験でも熟練でもいいので、人を探していますがいません。
製造業	A	専門技術者が必要ですが、良い人がみつかりません。
製造業	B	人材不足は日に日に深刻になっています。
製造業	A	パートさんが集まらない。
製造業	A	営業、特に販路に詳しい経験者が必要。
製造業	A	技術は一から覚えることができるため、手先が器用で健康な方が欲しいです。
製造業	A	好景気の反動は必ずある。
製造業	A	国内市場は縮小していくので海外の需要を増やせるように営業活動している。
製造業	A	人材面では、材料の扱いや機械の操作にうまく対応してくれるような即戦力がベストですが、なかなか難しいところです。
製造業	A	特殊溶接ガスなので夏は非常に暑くなるので人が入社してもすぐに辞める。人が入らないのが悩み。
製造業	B	４～９月は通年は不需要期。材料価格により変動するが、それを製品価格に転嫁できない局面をむかえると厳しい。
製造業	A	このまま右肩上がりに受注が進めば良いが、、、。
製造業	B	技術者を育成するために若い人材が必要である。
製造業	B	人手不足対策として機械化を推進する為、工場の新設を計画している。人手に頼らざるを得ない工程があるが、次世代の作業者の確保ができていない。

業種	規模	コメント内容
建設業	A	技術者の高齢化による先行の不安があります。
建設業	A	従業員の年齢が高齢になってきているので若い人材が必要。
建設業	B	営業、生産ラインの人材が不足しています。
建設業	A	技術者の確保、育成が必要。
建設業	A	内装仕上のクロス職人さんの不足。仕事はあるが職人さんが足りないので受注できない時があります。
建設業	A	技術者が高齢になっているが、若い人材がいない。
卸・小売業	A	営業が現時点で困っているわけではありませんが、年齢が４０代に片寄っている。
卸・小売業	B	関東への拡販を期待していましたが、なかなか動いていない感じです。2020年迄の物件も数多いと期待しているので、今まだ辛抱の時かと思っています。この暑さ位、市場も熱くなってほしいですね。
卸・小売業	A	現場作業の職人（技術者）が必要。
卸・小売業	A	営業、または技術者でコミュニケーション能力が高い人材が欲しい。
サービス業	A	設計事務所ですが、基礎勉強できる機会を求めています。加工や計算等、もっと基礎的な講習があれば受講したい。求人に関しては技術者が希望ですが技術者になりたい人すら見つけることが出来ていません。素人でよいので技術者志望の人材を確保したい。
サービス業	C	生産ラインの人材が全く足りません。求人を出しても応募者がこない。

※規模

Ａ＝５～19 人、Ｂ＝20～49 人、Ｃ＝50～99 人、Ｄ＝100～299 人、Ｅ＝300 人以上

※コメントは、できるだけ原文のまま掲載していますが、一部にご意見の主旨を曲げることなく加筆・修正している場合があります。また、調査を実施した 2017 年７月時点での表現となっています。

八尾商工会議所
〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)922-1181
http://www.yaocci.or.jp

八尾市 経済環境部産業政策課
〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)924-3845
八尾商工会議所会館内
http://www.city.yao.osaka.jp

※河内木綿をイメージしたデザインです